

どの子にも、学習し、発達する権利の実現を！

障害児教育の明日を語ろう



5 2010年7月26日

全教 障害児教育部事務局

埼高教障教部で学習会、役員会と懇談

7月17日(土)、埼高教(埼玉県高等学校教職員組合)障害児教育部の組合学校で「障がい者制度改革推進会議」の動向等、現在の情勢について学習会がおこなわれました。そして学習会后、障教部役員と埼高教選出の全教事務局役員で、障害児教育の課題と今後の運動の方向性について懇談をおこないました。

埼玉は、この間、障害児学校建設の面でも、組織強化・拡大の面でも、全国の運動をリードする役割を果たしてきています。「障がい者制度改革推進会議」から「障害者制度改革の推進のための基本的な方向」(第1次意見)が出され、その内容を受けた閣議決定も出されるという新たな情勢の中で、埼玉がどんなことに力を入れていくべきか、熱い討論がおこなわれました。

< 県立高校との連携の必要性 >

埼玉でも、県立高校に軽度の知的障害や発達障害の生徒が入学するケース、普通高校と高等養護学校を併願して受験するようなケースが増えており、特別なニーズをもつ生徒が様々な学校に在籍するようになっていきます。しかし、どこの学校に進学するかによって、カリキュラムが違ったり、施設設備が整っていなかったり、学級定員を始めとした条件が違ったりして、その生徒に合った教育が保障されていないこともあります。また、障害児学校の場合は教員が集団的に個々の生徒の問題について検討できますが、高校の場合は、担任が1人で悩んでしまうということも多々あります。

そういう状況の中、「県立高校の組合と同じ組織であることを生かして、障害児教育の課題を高校の教員ともっと連携して取り組んでいけないのだろうか」「障害児学校で蓄積してきた

ことをもっと高校に伝えていけないだろうか」ということが話題となりました。

高校には、いわゆる進学校から困難校まであり、同じ県立高校でも抱える課題が違って共通の課題にはなりにくい面があります。しかし、そのような条件でも、埼玉には、定通部と一緒に学習会をおこなったり、共同で県交渉をおこなったりしてきた実績があります。「組合の会議などで、障害児教育の課題について積極的に語り、高校の教員にも問題意識をもってもらい、連携を深めていくことが大切」「同じ地域の障害児学校と高校とで交流学習をおこなったりしてつながっていくことも大事」ということが語られました。

< 通常学校の教育にもっと関心を >

同時に「障害児学校の教員が通常学校の教育にもっと関心をもたなくてはならない」ということも話題となりました。今、小中学校を含めて通常学校の抱える問題は深刻になっています。障害をもつ子どもたちの学びの場が多様化する中、「通常の教育を変えないと障害児教育も変わらない。障害児教育だけが充実することはありません」という意識をもって、障害児学校の教員が通常学校の抱える課題にも一緒に取り組んでいく必要性も確認されました。

埼玉でも多忙化が進み、年々苦しくなっている状況は他の地域と変わりません。しかし、そうした中でも、埼高教障教部は、今、若い人も含めて、これまで積み上げてきた障害児教育を学び合い、運動を盛り上げ、「次の世代にしっかりとバトンを渡そう」という雰囲気を作ってきています。それを、是非、全国に発信していきましょうと確認し、懇談を終えました。

ある学校(埼玉)の分会役員とPTA役員との懇談で...

埼玉では、いくつかの学校で、分会役員とPTA役員との懇談がおこなわれています。県交渉などで取り上げる保護者の切実な要求を聞くのが中心的な内容ですが、今年はある学校では「障がい者制度改革推進会議」の話題にも発展しました。その中で出た声を紹介します。

Aさん「学校の懇話会で校長先生から初めて聞いた。地域の小中学校に学籍を置くことが基本となるなんて全く知らなかった。当事者の私たちに知らされないまま、なぜこんなに話が進むのかとびっくりしている。校長先生に、新しい情報が入ったらすぐ知らせてくださいとお願いした」

Bさん「推進会議のメンバーに、特別支援学校や特別支援学級の現場の教員が一人もいないということが信じられない。現場の声を聞くべきだと思う」

Cさん「特別支援学校には、障害児教育専門の教員がいる。通常の学校でその専門性が本当に担えるのかどうか疑問を感じる」

Dさん「特別支援学級・学校も選べることにはなっているが、通常が基本となれば、特別支援学級や特別支援学校を選んだら、教育条件整備を求めても『その条件をわかっている選んだのでしょ』という自己責任になってしまいかねない」

Eさん「今の通常学級の条件を改善することにも深くは言及されていない。結局、通常学級に行っても十分な保障はされず、特別支援学校に行っても不十分ということになってしまっているのでは？」

Fさん「今も『通常学級が整備されれば地域の学校で学べるのに』という子はいらぬ。そういう子どもたちにとってはいい制度かもしれないが、そう簡単にはいかない実態の子どももいるということを知ってもらいたい」



このお母さんたちのように多くの保護者には今の状況が知らされていません。当事者である本人や保護者が知らないままに進んでいくことはとても問題です。是非、みなさんの地域の保護者の方々にも知らせていきましょう。寄せられた声を事務局にもお知らせください。



カタロー犬

「障がい者制度改革推進会議」(第一次意見)の内容を多くの方に伝えましょう
「二つの提言」を積極的に活用し、各地で懇談・対話を進めましょう
懇談・対話の報告や、「二つの提言」への意見等を全教障教部にお知らせください

障害児教育の明日をカタロー!

(メール) y_sugiura@zenkyo.org